令和８年度 古賀市立古賀西小学校 学校経営要綱

古賀市立古賀西小学校　校長　　黒瀬　ゆかり

Ⅰ　学校経営の基本構想

１　学校経営の基盤

（１）公教育としての基盤に立つ教育

○　日本国憲法、教育基本法、学校教育法等の関係法規並びに学習指導要領、福岡県や古賀市の教育関係法令及び教育施策に基づいて教育活動を行う。

（２）　現代社会の要請に応える学校

①　学習指導要領の趣旨を踏まえ、「持続可能な社会の創り手」となることができるよう児童一人一人に「生きる力」をバランスよく育むことを目指す。

②　「生きる力」に共通する要素である学習指導要領の３つの柱の育成を図るため、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させ、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善とカリキュラム・マネジメントに取り組む。

③　人権尊重の精神を基盤に、多様性の視点に立った教育活動を推進する。

（３）　児童・保護者・地域の実態に即し、願いに応える学校

①　社会に開かれた教育課程の実現を目指し、カリキュラム・マネジメントの充実を図る教育活動を行う。

②　地域の自然環境・文化環境・人的環境を生かした教育活動を行う。

③　保護者や古賀西校区コミュニティと連携したコミュニティ・スクールを推進する。

２　学校の教育目標

地域を愛し、夢をもって主体的に取り組む子どもの育成

教育目標の意味

「地域を愛し」とは、古賀西小学校区の「ひと（自分・家族・友達・先生・地域）・もの（校舎・校庭・地域環境）・こと（学校行事・地域行事）」に尊敬と愛着を感じ、古賀西小学校区の児童であることに誇りと自信をもち、自尊感情が高まった子どもの姿のこと。このことは、将来、地域の持続可能な社会の創り手となる素地を培うことにつながると考える。

「夢をもって主体的に取り組む」とは、自分のよさや可能性を認め、多様な人々と協働しながら、自律的に目標達成のための行動をとることである。このことは、「生成 AI の進化」、「ＳＤＧｓの推進」や「世界情勢の不安定さ」など、先行き不透明な社会の中でたくましく生き抜くために育てたい資質・能力であると考える。

３　具体目標

（１）目指す子ども像

（知）主体的・協働的に学ぶ子ども
（徳）心豊かで助け合う子ども
（体）心身ともに健康で、粘り強く取り組む子ども

（２）目指す学校像

〇　笑顔あふれる明るい学校

・挨拶があふれる学校　　・安心・安全な学校　　・掃除が行き届く気持ちのよい学校
・いじめや不登校の早期発見・対応を行い、明るく安心して生活できる学校
・教職員同士の同僚性が高く、**教職員が共に学び合う学校**

〇　学び高め合う学校

・学ぶ意欲にあふれ、自分の考えを進んで表現する学校
・話をしっかりと聞き、お互いの考えを尊重する学校
・対話を通して考えを深め合う学校

〇　地域とともにある学校

・地域の「ひと・もの・こと」を活かした教育活動に取り組む学校
・**古賀西校区コミュニティや保護者等と連携**しながら、教育活動に取り組む学校

（３）　目指す教師像

○　教育公務員としての使命感、責任感をもち、率先垂範する信頼される教師
〇　豊かな人権感覚をもち、多様な子どものよさを見出し、そのよさを認める教師
○　教育のプロとして、謙虚に自己を研鑽し、専門性を高める教師
○　**夢をもって主体的に教育実践に励む教師**

Ⅱ　本年度の重点目標及び経営の重点

１　教育課題と経営課題

（１）　教育課題（子どもの実態から）

①全国学力学習状況調査質問紙項目「将来の夢や希望をもつ」より

○　豊かな人間性の育成・非認知能力の向上
・　豊かな人権感覚の醸成　　・　**自尊感情・自己有用感の向上**　　・　規範意識の向上
○　不登校児童の減少に向けた取り組み（自己肯定感、有用感、ステップルームの活用）

②Ｒ７標準学力調査結果より

○　学びに向かう力、知識の習得、表現力の育成
・　**学ぶ意欲と主体性の向上**
・　**学びの基礎力、社会的実践力**（学んだことを生かして、みんなとよりよい社会をつくっていく力の向上）
○　学力低位層の学力向上

（２）　経営課題（組織運営の課題から）

○　教職員全体の実践的指導力の向上

学びのスタンダード等（共通確認事項）の徹底

いじめや不登校を生まない学級経営力の育成

児童・保護者との信頼関係が構築される生徒指導力の向上

ＩＣＴ機器の活用による協働的な学びと個別最適な学びの実践

○　学校経営の参画意識向上とチーム推進力の向上

組織マネジメント

○　豊かな人権感覚と率先垂範の意識　**教員は、児童のモデルという自覚**

○　働き方改革を踏まえた取組と発想の転換（行事精選、時制整理、会議スリム化）

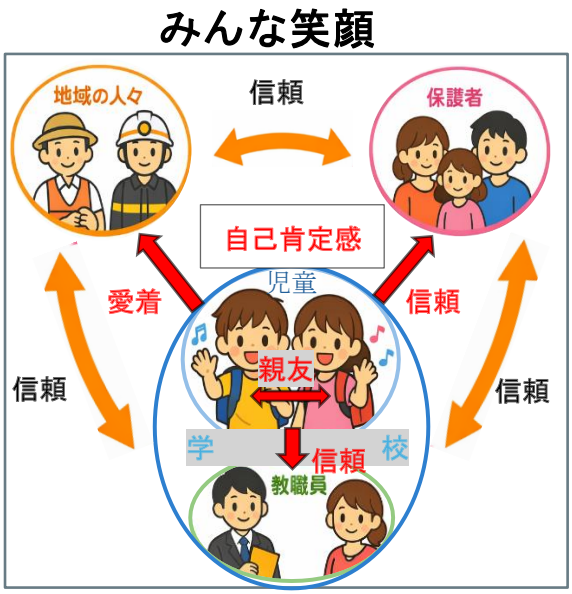
２　本年度の重点目標及び経営の重点

（１）本年度の重点目標

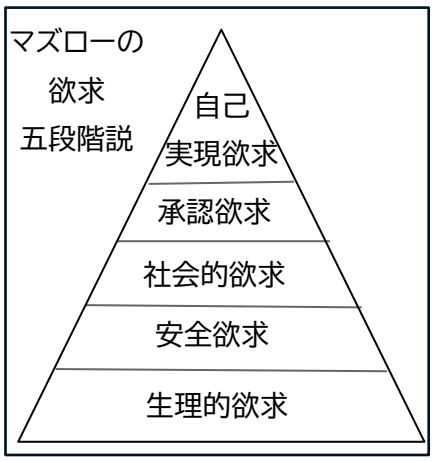
『もっとつながり、みんな笑顔になる学校づくり』

（２）重点目標の意味

「つながる」とは、 児童、教師、保護者、地域が信頼関係を築くことである。具体的には、授業のなかで担任と児童がつながる、交流活動で児童同士がつながる、学習参観を通して、担任と保護者がつながる、学校行事で担任と保護者、保護者同士がつながる、学校を開くことで学校と地域がつながる、コミュニティとの協働活動で学校と地域がつながる、児童の地域行事への参加で、児童と地域がつながることである。「もっとつながる」とは、双方向性のつながりを意識することである。また、自分と自分がつながること、自己肯定感を高めることである。



「みんな笑顔」とは、人がつながったとき、友だちであれば「親友」となり、担任であれば「信頼」を抱き、地域であれば「愛着」がわく。この状態が基盤となり、児童を取り巻く全ての人的環境（みんな）のなかで、みんなが「満足」することである。また、「満足」するとは、資料のマズローの欲求５段階が全て満たされた状態のことであり、そうなれば、心が満ち足りて幸せな気持ちになることである。児童は、もっとつながると対象が大好きになり、好きな人（こと）のために 一生懸命取り組み、いい結果につながりもっと笑顔になるという捉えである。



３　重点目標達成のための経営の重点

何のためにするのか目的や目標を明らかにしてつながる

（１）主題研究の日常化　　◇学校評価（教師）「学力向上・研修」３．２Ｐ以上

主体的・対話的で深い学びの実現にむけた視点からの授業改善

○主題研修「算数科」を通して、主体的・協働的な学びの姿を追求する。

研究主題　数学的な見方・考え方をつなぐ子どもを育てる算数科学習指導
～「比較する」活動を位置付けた単元構成の工夫を通して～

「比較する」活動の工夫による課題設定・対話活動・振り返り活動を通して、主体的、協働的な学習活動を目指す。

※　教師が話し過ぎない、主役は子ども

（２）プロジェクト部会（心・学び・体づくり部会）の機能化の推進

◇学校評価（教師）「校務分掌・組織運営」３．２Ｐ以上

○　１か月に１回（9 月からは、2 か月に１回も検討）開く。

・各部会の目指す児童像に照らした評価と改善を話し合う。

・各分掌の提案内容の協議と支援を話し合う。

○　各プロジェクト部会を推進するプロジェクトリーダー（PL）会議を行う。委員会活動の時間に行う。PL は、委員会に属さない。

（PL 会議構成員）各部会の PL、各 PL をサポートする管理職
（心：教頭、学び：主幹教諭、体：校長）

①学びづくり部会・・・学力向上に向けた取組を計画立案及び推進

◆主体的・協働的に学ぶ子ども　　重点目標指標

◇西っ子スタンダード　児童・教師評価　３．２P 以上

4	進んで読書を楽しむことができる。
5	話をしている人に身体を向けて聴くことができる。
6	自分の考えをもって、相手を意識して発表ができる。
7	学習の準備とせいりせいとんができる。（宿題・荷物・学習用具・くつ）

◇全国学力・学習状況調査（6 年：4 月実施）：全国平均値より国語±０P、算数±０P

◇県学力調査（5 年：6 月実施）：県平均値より国語±０P、算数±０P

◇古賀市標準調査（全学年：12 月実施）前年度より＋１P　評定１児童経年比較－５％

◇教師、児童授業力アンケート（7 月、12 月実施）３．２P 以上

◇児童　社会的実践力アンケート（間接的な非認知能力尺度）３．２P 以上

【具体的な取組】

□　学びのきほんの徹底

□　ICT 教育とプログラミング教育の推進

○　ICT 機器の活用による授業改善：個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

○　各学年取り組みの共有

・プログラミング教育の取組　　・情報モラル学習の取り組みの充実

・個の課題に応じた学習の設定・家庭学習

□　地域の「ひと・もの・こと」を生かした教育活動の実施:社会的実践力の育成

○　SDGs の観点を学習活動に位置付ける。

○　各学年を通した「中村哲物語」の活用　１２月人権担当から提案

○　よりよい地域をつくる地域コミュニティ活動の学習の位置づけ　キャリア教育４年

○　生活科・総合的な学習の時間の推進 単元計画を明確にする。

６年⇒中村哲さんの思いをつなぐ取組（令和５年度発行）

５年⇒松林清掃を核として、環境保全 SDGs の発進

４年⇒し尿処理学習をもとにした人権教育推進　校区コミュニティを知ろう

３年⇒高齢者や障がいのある方との交流　人権の花「ひまわり」運動

１・２年⇒見守り隊との交流　自然環境　砂浜のよさを体感する取組　昔遊び

※ 学習指導要領「生きる力」（「確かな学力」「豊かな人間性」「健康・体力」）

＝本校「社会的実践力」

□ 家庭学習の充実

・家庭学習でのミライシード活用（全学年）　学年ごとの取組計画の明確化

・クロームブック持ち帰りとその活用（１年生の持ち帰り時期を明確にする）

□　「１人１００冊」運動・ブックマスター運動の推進　読書週間で学級目標の達成

□　算数科少人数指導の充実　各学年実施単元と実施時期の提案

□　「古賀西小学校学びのきほん」立腰指導の定着　健康な体づくりの徹底

□　基礎基本の内容（例：１年足し算引き算、２年九九検定、３年ローマ字など）**定着**

②心づくり部会・・・豊かな心及び人権教育の取組の計画立案と推進

◆心豊かで助け合う子ども　重点目標指標

◇西っ子スタンダード　児童・教師評価　３．２P 以上

１	「つながる」あいさつができる。
２	時間いっぱい・もくもく・すみずみ掃除ができる。
３	自分も相手もうれしくなる言葉を使うことができる。

◇不登校児童、不登校兆候児童の減少　前年度より減少

◇児童　社会的実践力アンケート（間接的な非認知能力尺度）３．２P 以上

【具体的な取組】

□　教科・領域や体験学習と関連させた道徳科の充実、「いのちのノート」の活用

□　自主的・自治的な学級づくり 学級活動(１)の計画的実践

□　特別活動の充実　自発的・自治的な活動の推進

委員会活動　各委員会年間取組分担作成

クラブ活動　年間計画にもとづいた運営

□　いじめ・不登校児童防止のためのケース会議の充実

生徒指導委員会と校内特支委員会の連携

□　縦割り活動を推進　縦割り掃除　縦割り遊び
もくもく掃除
みんなのために　もくもくそうじ　みんなの心もピカピカに
トイレ掃除の徹底　（みんなで使う最も大切な場所　トイレ）
トイレ掃除は年間通した縦割り掃除の実施

□　人権教育の視点に立った授業実践（2年「排育」４年「し尿処理学習」６年「歴史学習」）

□　生徒指導提要の改訂に伴い、指導より支援（よりそう）姿勢で対応
発達支持的生徒指導を重視した生徒指導を行う。
改訂生徒指導提要をもとにした職員研修の充実

③体づくり部会・・・たくましい心と体づくりに向けた取組の計画立案と推進

◆心身ともに健康で、粘り強く取り組む子ども　重点目標指標

◇西っ子スタンダード　　児童・教師評価　３．２Ｐ以上

8	こしぼねを立てて学習をすることができる。
9	安全に気をつけて、遊んだり運動したりすることができる。
10	給食に感謝して、バランスよく食べることができる。

◇児童　体力向上プラン：体育科の授業が「好き」「やや好き」を合わせた割合
９３％以上
「週３日以上運動をする」児童の割合　７０％以上

【具体的な取組】

□　学年に応じた防災教育・安全教育の推進
引き渡し訓練（５月運動会時：全学年対象　新１年は入学式後体育館で担任から説明）、
地震・火事（R８　R７末には消防署に派遣依頼提出）、
不審者対応（R８）などの避難訓練　年２回
外部人材活用による防災の授業づくり　計画的実施

□　体力向上プランにもとづいた１校１取組　「なわとびグランプリ」

□　体育委員会を中心とした屋内・屋外遊びの実施

□　毎月１日（１日が休日の場合は翌日）は、安全点検の日
運動場・体育館・教室・廊下・昇降口等の安全確認と環境美化
年に３回遊具点検（内１回は業者による点検）

（３）特別支援教育、特別支援委員会の充実　**◇学校評価（教師）「特別支援教育」３．２Ｐ以上**

□　全ての学級においてユニバーサルデザインの環境・授業を意識する。

□　特別支援学級担任は担当学年の学年会への参加　月１回は設定する：拡大学年研修会

□　校内特別支援委員会の充実
通常学級に在籍する特別な配慮を要する児童への支援体制の充実
移籍内容の確実な引継ぎ　※学年代表の位置づけ

□　生活単元、自立活動の年間計画の共有　保護者・地域人材を活用した教育活動の工夫

□　交流および共同学習の取組を年間指導計画位置付け

□　特別支援学級担任による交流学級給食指導　交流学級での給食指導を基本

生活の自立とよりよい人間関係の構築を目指す取組を日常化

（４）組織運営・職員研修・家庭、地域との連携（コミュニティスクールの推進）

◇学校評価（教師）３．２Ｐ以上

協働的な学年研修会・チーム推進・各分掌

①　学年研修会の充実、学年でそろえることの徹底、学年での役割分担の明確化
　　拡大学年研修会を実施（特学担任、指導方法改善教員等を招いて、近接学年会）
特支学級担任と共に、児童の様子、学校行事や総合、生活などの進め方について確認

②　教科担当制、交換授業の積極的実施
　中・高学年外国語専科制、高学年教科担任制（指導工夫改善による教科指導検討）

③　学年チーム推進研修会の計画的・効率的な実施
　学年で統一した指導による重点目標、学年経営の重点に向けた具体策の共有化

④　ＰＤＣＡサイクルが機能する分掌運営　分掌主務者と相談体制

キャリアステージに応じた人材育成を図る職員研修の推進

①　低中高学年、知的・情緒学級の研修グループ　メンタリングによる主題研究の推進

②　ニーズに合わせた一般研修の充実　人権教育　特別支援教育　危機管理研修

③　業績評価と連動した自己評価表による人材育成
教員育成指標、人権教育育成資料、特別支援教育指標に基づいた具体目標の設定

④　自主研修の推進
糟屋地区教科等研、他校研究発表会、キャリアアップ講座、糟屋地区教育論文、
教育懇談会など

⑤　古賀中校区連絡協議会をもとに、校区で連携した人権教育の推進
人権に関する研修、学人研参加

⑥　校内 OJT すなやま会（若年教職員）の計画的実施　内容の充実
若年教員（１～４年）による学びのアウトプット

PTCA、家庭、地域（コミュニティスクール）との連携　※双方向性を意識した取組

①PTCA、地域コミュニティとの連携による西っ子まつり実施
　　PTCA 活動との連携　加入呼びかけの取組　PTCA 研修会の充実

②校区コミュニティ行事　ハマボウ祭り、通学合宿、春夏秋冬の陣の積極的参加の働きかけ
　　校区コミュニティの活動内容についての理解とその思いや願いを共有する取組

③古賀西小 Facebook、学校通信、安心安全メールを活用した教育活動の発信

④挨拶運動、家読、家庭学習強化週間などを通して、家庭と連携した生活習慣・学習習慣の確立
　　運動の取組を安全・安心メールで配信し家庭からの協力を促す

働き方改革の推進（業務改善と意識改革）

①　通常５時間授業を基本とし、6 時間授業日は、週１日

②　教科担任制の推進

③　留守番電話対応　１７：００～８：００　超過勤務時間 45 時間以内　定時退校日の設定
退勤時間１９：００厳守

④　低学年 4 時間月・金曜日設定 クラブや委員会開始時間の職員配置（低学年担任の協力体制）

⑤　職員の勤務時間　８：２０～１６：５０　時制の開始は８：２５

⑥　給食準備時間５分間　休息時間昼休み３０分間、放課後 15 分間
⑦　職員会議は必要な回数のみ　会議を減らし迅速な分掌運営を行う
⑧　校内衛生委員会による働き方改革推進　教職員のメンタルヘルスの取組
⑨　週１回の「セルフミーティングタイム」の導入：教職員の自己調整能力向上による働き方の意識改革

〈参考〉

【西っ子スタンダード】一覧

こころ	1	「つながる」あいさつができる。
	2	時間いっぱい・もくもく・すみずみ掃除ができる。
	3	自分も相手もうれしくなる言葉を使うことができる。
学び	4	進んで読書を楽しむことができる。
	5	話をしている人に身体を向けて聴くことができる。
	6	自分の考えをもって、相手を意識して発表ができる。
	7	学習の準備とせいりせいとんができる。（宿題・荷物・学習用具・くつ）
からだ	8	こしぼねを立てて学習をすることができる。
	9	安全に気をつけて、遊んだり運動したりすることができる。
	10	給食に感謝して、バランスよく食べることができる。

3　令和８年度　学校経営構想図

教育目標：「地域を愛し、夢をもって主体的に取り組む子どもの育成

めざす学校像　　笑顔あふれる明るい学校・学び高め合う学校・地域とともにある学校

めざす子ども像

（知）　主体的・協働的に学ぶ子ども
（徳）　心豊かで助け合う子ども
（体）　心身ともに健康で、粘り強く取り組む子ども

学習規律・生活規律「西っ子スタンダード」の定着

「つながる」あいさつができる。
時間いっぱい・もくもく・すみずみ掃除ができる。
自分も相手もうれしくなる言葉を使うことができる。
進んで読書を楽しむことができる。
話をしている人に身体を向けて聴くことができる。
自分の考えをもって、相手を意識して発表ができる。
学習の準備とせいりせいとんができる。
こしぼねを立てて学習をすることができる。
安全に気をつけて、遊んだり運動したりすることができる。
給食に感謝して、バランスよく食べることができる。

めざす教師像

○　教育公務員としての使命感、責任感をもち、率先垂範する信頼される教師
○　豊かな人権感覚をもち、多様な子どものよさを見出し、そのよさを認める教師
○　教育のプロとして、謙虚に自己を研鑽し、専門性を高める教師
○　夢をもって主体的に教育実践に励む教師

教育課題

○　豊かな人間性の育成・非認知能力の向上
○　不登校児童の減少に向けた取り組み（**自己肯定感、有用感**、ステップルームの活用）
○　学びに向かう力、知識の習得、表現力の育成
○　学力低位層（評定１児童）の学力向上

経営課題

○　教職員全体の実践的指導力の向上
○　学校経営の参画意識向上とチーム推進力の向上
○　豊かな人権感覚と率先垂範の意識
教員は、児童のモデルという自覚
○　働き方改革を踏まえた取組と発想の転換
（行事精選、時制整理、会議スリム化）

重点目標

もっとつながり、みんなが笑顔になる学校づくり

1　主体的・協働的に学ぶ子ども
・全国学力調査＝国語±０P　算数±０P
・市学力調査＝前年度より１P、
経年比較評定１児童－５％
・社会的実践力、西っ子スタンダード
児童評価 3.2P 以上
・読書活動の推進（一人 100 冊運動、家読）
・ICT を活用した生活科、総合的な学習の時間の推進

2　心豊かで助け合う子ども
・不登校児童・兆候児童の前年度より減少
・たてわり活動の充実

3　心身ともに健康で、粘り強く取り組む子ども
・学年に応じた防災教育・安全教育、健康教育の推進

経営の重点

何のためにするのか
目的や目標を明らかにしてつながる

1　主題研究の日常化
主体的・対話的で深い学びの実現にむけた視点からの授業改善
○主題研修「算数科」を通して、主体的・協働的な学びの姿を追求する。

2　プロジェクト部会（心・学び・体づくり部会）の機能化の推進
○　１か月に１回（9 月からは、2 か月に１回も検討）開く。
○　各プロジェクト部会を推進するプロジェクトリーダー（PL）会議を行う。

3　特別支援教育、特別支援委員会の充実

4　組織運営・職員研修・家庭、地域との連携（コミュニティスクールの推進）

校務運営構想へ